

平城宮跡での遣唐使船復元

組み上げ本格的に

平城遷都1300年記念事業協会は1300年祭の主会場となる平城宮跡会場（奈良市）の予定地で遣唐使船の復元工事を進めているが、22日から本格的な組み上げ作業が始まった。

復元工事を担当しているのは古代船の復元で全国唯一の技術を持つとされる静岡県松崎町の岡村造船所。甲板より下のパーツは7つに分けられ、今月17、19日に平城宮跡会場予定地の県が建設を進め

22日は同造船所などの作業員8人が各パーツの接続やスギ材による外壁の取り付けなど組み上げ作業を行った。年内は26日まで実施、

地方であることは間違いないが、もっと視野を広げ世界の奈良という考え方があっていい。

お隣の韓国では観光客1億人を目指しているという。政府が世界に向かつて観光客誘致のためのPRを展開している。日本は来る人よりも海外に出かける数の方が圧倒的に多いといわれている。日本

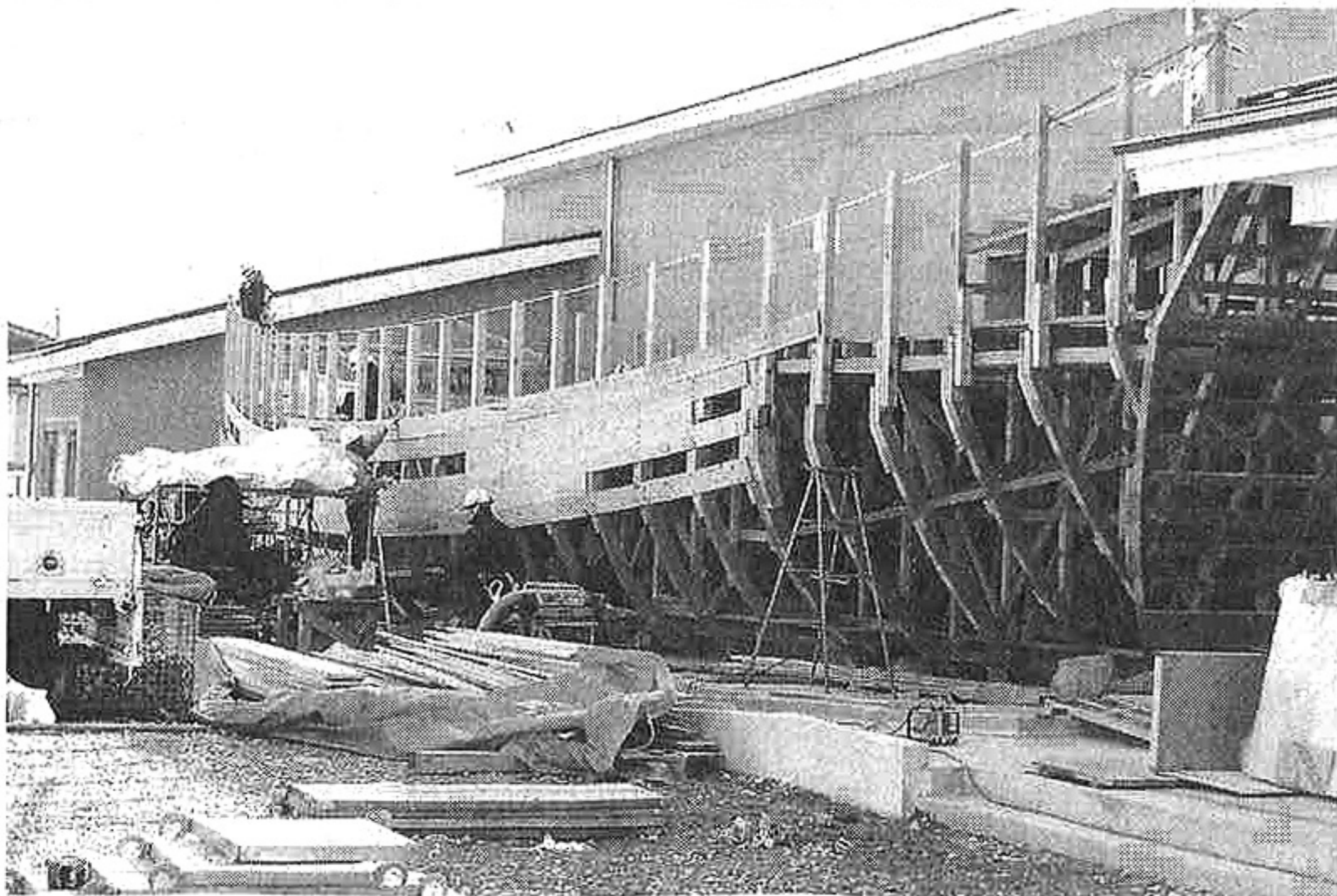
だというように、なつてもらいたい。若者が好むような食品、ファッションを発信するとか、そんな元気がほしい。奈良ブランドの「食」というものをつくっていくことが大切ではないかと考えている。

そうすればそれに引き連れて企業の進出が考えられるだろう。今はその逆になっっているような気がする。また、食も人を呼ぶパワーになる。来年開催される平城遷都1300年祭でたくさんの方に誘ってほしい。

これまで奈良は大阪の補助、あるいは助人的な役割を担ってきた

1月は6日から再開するという。

1月下旬には甲板上を静岡から運び込んで設置。2月上旬から塗装工事を進め、3月中旬の完成を目指す。



組み上げ作業が始まった遣唐使船の復元工事＝奈良市の平城宮跡会場予定地で